

シニア記者が注目した不祥事・トピックス（8月16日～9月15日）

「👁️」は注目すべき・見逃せない案件、「喝！」はけしからん・憤りを覚える案件

※は表の下にコメントを記載

日付	ニュースの概要	江口	大澤	千葉	佃	山下
8/18 ～	五輪組織委元理事 受託収賄容疑で逮捕 AOKI、KADOKAWA 幹部らも続々逮捕	喝！	👁️	👁️	👁️	喝！
8/20	朝日新聞 朝刊記事下広告に自社批判本 元政治部デスクの「朝日新聞政治部」掲載					👁️ ※
8/23	日野自動車 国内の全量出荷停止 大型・中型に続き小型トラックでも不正			👁️		
8/24 ～	NTT 西 京都府、愛知県などで通信障害 KDDI は東日本で再び障害、トラブル続く	喝！			👁️	
8/31 ～	政府 入国者数の上限引き上げを発表 コロナ水際対策を緩和し1日5万人に		👁️			
8/31 ～	日本製鋼所 子会社で新たな検査不正 5月はデータ改ざん、今回は試験を省略	👁️				
8/31 ～	岸田首相「国会で安倍国葬の説明尽くす」 国葬で政治不信高まり、内閣支持率は急落		喝！ ※		👁️ ※	
9/1	経済正常化で内部留保が初の500兆円超 財務省の法人企業統計、直近利益も最高に			喝！		
9/1 ～	日産自動車 EV「リーフ」異例の値上げ 原材料・物流費が高騰、モデル改良なしで	👁️ ※				
9/1 ～	トヨタ 香川照之のテレビCM打ち切り 香川氏出演CM・番組も相次いで放映中止		👁️			
9/2 ～	円安止まらず 24年ぶりに140円台突入 日米金利差拡大で、今年の下落率18%に			喝！ ※		👁️
9/5 ～	通園バスに置き去り 3歳女児が死亡 静岡幼稚園 車内に5時間、熱中症に				喝！ ※	
9/8	所属議員の半数近くが旧統一教会と接点 自民党が調査結果発表 379人中179人			👁️		
9/8 ～	東芝社長「結果示し、混迷から脱却する」 シダックス TOB 巡り社内外で対立					👁️ ※
9/9	BPOが「重大な放送倫理違反」を指摘 NHK「河瀬直美が見つめた東京五輪」で		喝！ ※		喝！	喝！
9/15	「身代金要求型」サイバー被害が8割増 警察庁1～6月被害調査、製造業3割以上	👁️				

◆ シニア記者のコメント ◆

【8/20 朝日新聞が記事下広告で元政治部デスクの朝日批判本を紹介】

「朝日新聞もなかなかどうして、捨てたものじゃない」と感心した。同紙の8月20日付朝刊。目が行ったのは記事ではない。記事下の書籍広告。半5（横幅が1頁の半分、縦幅が5段分）サイズで、『朝日新聞政治部』（鮫島浩著、講談社刊）を、「すべて実名で綴る、衝撃のノンフィクション」「大反響、続々大重版5刷！」と紹介していたのだ。著者（元朝日新聞政治部デスク）の手書きコメント「大新聞はなぜ駄目になったのか。この目で見てきたことを、ありのまますべて書きました」も載せていた。

新聞社が自社をネガティブに取り上げた活字媒体に、自紙の広告スペースを提供するのは生半可なことではない。二昔ほど前の話だが、日経新聞が、当時のドン鶴田卓彦氏を取り上げた週刊誌の広告を、鶴田関連記事の部分だけ黒塗りにして載せたのを思い出した。今回の広告掲載に至るまで、朝日新聞社内で大激論が交わされたであろうことは想像に難くない。その決断を多としたい。当方のようにポジティブに評価する向きが少なくないからだ。（山下郁雄）

【8/31～ 安倍国葬と旧統一教会問題 権力集団の傲慢が…】

岸田文雄首相は衆参両院の議員運営委員会の閉会中審査(9/8)で、安倍元首相の国葬(9/27)について「説明が不十分との部分があると認識している」と語りつつ、これまで述べてきた開催理由や法的根拠を繰り返した。野党側から「三権の長に諮ったのか」と追及されても明確に答えなかった。

また自民党は同日、旧統一教会(世界平和統一家庭連合)とその関連団体と接点のあった党所属国会議員の点検結果を発表した。衆参両院議長を除く379人中179人がかかわりを持ち、うち選挙支援を受けるなど“濃厚”な121人の議員名も公表した。しかし、キーパーソンとされる安倍元首相について岸田首相は「お亡くなりになった今、聴取するには限界がある」と語り、調査しない姿勢を示した。

国民の政治不信は一段と高まっている。共同通信の9月世論調査(9/17、18実施)では「国葬に反対」が60・8%、また「自民党の旧統一教会への対応は不十分」も80・1%へ増加。岸田内閣の支持率は40%、不支持が46・5%と逆転した。さらに毎日新聞調査(9/17、18)では支持29%、不支持64%となり政権運営は危険水域に入った。（大澤賢）

【8/31～ 安倍国葬と旧統一教会問題 権力集団の傲慢が…】

政治・経済のストライクゾーンにいなかったせいも、全体の傾向や流れに目が向いてしまいます。最近の動きで目につくのは「分断」の閉塞が生んだ権力集団の傲慢です。

価値観が同じ人たちの中では、異論があっても大同小異。一致団結の高揚感で類が友を呼び、おこぼれ目的の似非同志が入り乱れて利害得失を共有するようになると、閉塞する小宇宙の結束は強くなります。

万人に平等たるべき最高権力者が、ヤメろコールを上げる群衆を「こんな人たち」と突き放してから丸5年、権力集団は謙虚な方向に舵を切ることがありませんでした。相次いで露見している東京五輪汚職、政治と反社組織の癒着といった疑惑は、それが発する汚臭にほかなりません。

その元を絶たないまま、「弔問外交」という後付けの詭弁を押し通す。分断と傲慢の末、自縄自縛に陥っている証左です。それこそが「ガラパゴス日本」の姿だということに、わたしたちは気がつかなければなりません。(佃均)

【9/1～ 日産リーフが異例の値上げ “値上げラッシュ”の秋に】

値上げラッシュの秋になっている。「赤信号皆で渡れば…」とばかりにどこも先を争うように値上げを発表している。値上げされる品目は数えきれず、逆に値上げされない品目を見つけるのが難しいほどだ。消費者はもはや怒る気力も失せ、諦めムード。値上げする側はコストアップ要因について雄弁に語るが、コストアップ要因が解消された場合の対応については皆押し黙ったまま。

消費者に負担を強いて申し訳ないという気持ちがあるのなら、コストアップ要因が解消された場合には速やかに値段を元に戻すと、今から明言すべきだ。値上げでコストアップを吸収できたのか、値上げで消費者離れが起きて売れ行きが鈍ったのか、当該企業の次の決算発表が注目される。(江口務)

【9/2～ 円安止まらず 24年ぶりに140円台】

為替レートの中長期的な変動要因は「ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）」であると言われる。現在、進行中の円安は日米の市場金利差によって生じているとみられているが、それだけが原因と言えるのか。

1985年9月のプラザ合意で1ドル=235円台から翌年には150円台まで円高が進んだ当時、筆者は駆け出しの半導体担当記者だった。日本からの安値輸出問題から始まった日米半導体摩擦も急激な円高によって収束していったとの記憶がある。自動車担当だった1994年には日米自動車摩擦が始まり、1ドル=110円台から79円台まで円高が進んだ。これを機に日本メーカーは輸出から現地生産へのシフトを進めていった。

1997年7月にタイ・バーツ暴落に始まるアジア通貨危機が起きた時、筆者はタイ政府に招かれてバンコクを訪れていた。帰国すると日本では北海道拓殖銀行、山一証券などの経営破たんが発生し、98年8月には1ドル=147円台まで円安が進んだ。その直後にロシア危機が発生し、主要国で最も金利が安かった円で資金を調達し外貨に投資する取引が拡大したことで、「リスクオフ円高」が初めて発生したと言われる。2008年9月のリーマンショックによる世界同時金融危機の時もリスクオフ円高が進み、2011年10月には過去最高値となる1ドル=75円台を付けた。

2012年に第2次安倍政権が発足すると、アベノミクスで異次元の金融緩和政策を始め、日本経済再生のために円安誘導策が取られてきた。日本企業にとって居心地の良い為替水準が続いてきたわけだが、それによって日本経済の構造改革も進まなかったのではないか。

政府は、急激な円安を阻止するため先週22日に1998年6月以来24年振り円買い介入を実施した。大規模金融緩和を継続しながらの介入で、どこまで効果を発揮できるのか。現在の円安も日米の金利差に加えて日本経済のファンダメンタルズによって生じていると考えるべきだろう。(千葉利宏)

【9/5～ 通園バスに3歳児を置き去り 「空っぽの水筒」に心が痛む】

またか——。第一感はこれでした。無垢な命が、なぜかくも杜撰な仕打ちで失われるのか。空っぽの水筒が転がっていたと聞いて心が痛み、園側の無責任な言い訳に腹が立ちます。

日本自動車連盟 (JAF) によると、2021年8月に乳幼児やペットを車内に閉じ込めてしまった事案は99件もあったそうです。「パチンコに興じていた」「買い物に夢中だった」など状況はさまざまです。赤ちゃん忘れ症候群は決して免罪符にはなりません。

園児にスマートウォッチを持たせて乗降時にタッチさせる、エンジンを切ったら3分以内に最後部のボタンを押さないと警告音が鳴る、バスの天井にカメラを設置して園児を追跡するといった”解決策”が示されています。事故(事件)の直後だったので、ネットでは陰謀論が盛んでした。

これもまた腹立たしく、情けない話です。ITは手段に過ぎません。人の劣化を食い止めない限り、同じことはまた起こります。(佃均)

【9/8～ 東芝再編で思惑交錯、シダックスはTOB巡り社内外で対立】

東芝の“着地点”は、二転三転どころか四転五転し、依然、不透明なまま。目下の焦点は、日本企業連合ファンドが大株主に収まるかどうかのようだが、これだけ迷走が続くと、一寸先は闇、何があってもおかくしくない、と見るしかないだろう。

東芝と同様、迷走状態に陥ったのがシダックスを巡る一連の買収劇だ。シダックス創業家と創業家以外の役員諸氏、投資ファンド「ユニゾン・キャピタル」、オイシックス・ラ・大地、コロナイドと、多彩な顔ぶれが入り乱れて、買収提案を出した、取り下げたなど、状況は目まぐるしく動き、着地点が見えてこない。

資本主義の根幹をなすのは、その名の通り資本＝株式だ。東芝、シダックス両社の迷走ぶりは、資本主義が抱える本質的、根源的な課題や矛盾を呈示しているのかもしれない。岸田首相が唱える「新たな資本主義」でも、根っこの部分は変わらない。敵対的買収やら何やらのドタバタ劇は、これから先、増えることはあっても減ることはないだろう。(山下郁雄)

【9/9 NHK番組「河瀬直美が見つめた東京五輪」は重大な放送倫理違反】

虚偽の字幕を付けて放送されたNHK番組「河瀬直美が見つめた東京五輪」について、放送倫理・番組向上機構(BPO)は「重大な放送倫理違反があった」と認定した。この問題は2月にNHK自身が内部報告書をまとめ、関係者を処分している。

今回、BPOが重大事したのは、五輪反対デモ参加者の「実はお金をもらって参加している」という字幕が事実ではなく、「半ば捏造的に放送された」と判断したためだ。「デモやその参加者に対する無意識の偏見や思い込みが潜んでいたのではないか」と指摘、NHKに取材先と社会へのリスペクトの精神を失わないことを求めた。(大澤賢)